

「平成30年度全国学力・学習状況調査」における 結果の考察と取り組み

木曽岬町教育委員会

この調査は小学校6年生・中学校3年生を対象に学力または学校生活や家庭生活の様子を把握し、今後の学習や生活の改善に必要な取り組みを検証していくために毎年実施されているものです。今年は3年に1度の理科も実施されました。

1 実施教科

- 小学校：国語(A問題・B問題)、算数(A問題・B問題)、理科
- 中学校：国語(A問題・B問題)、数学(A問題・B問題)、理科
- A問題…主として「知識」に関する問題（身につけておくべき基礎的な知識や技術）
- B問題…主として「活用」に関する問題（知識や技術を実生活の場に活用する能力）
- 理科…主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題を一体的に問う

3 調査結果に対する考察

〈小学校〉

【国語】 「基礎的な知識や技能」は身についていますが、「知識の活用」について課題が見られます。

- A問題：漢字の読み書きや、主語と述語に注意して正しい文章を書くことはできる。
- B問題：話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめたり表現したりすることに課題がある。

【算数】 「基礎的な知識や技能」について、分野によって課題が見られます。

- A問題：1あたりの大きさを求める（割合）や、円周率を活用すること（図形）に課題がある。
- B問題：分配法則の活用はできる。図形や角の大きさについて記述することに課題がある。

【理科】 「基礎的な知識や技能」と「知識の活用」の両面で課題が見られます。

動物の観察や人体のつくり、気象に関する基礎的な知識に課題がある。また、実験結果を予想したり、実験結果を基に自分の考えを記述したりすることに課題がある。

〈解答率について〉

【小学校】 解答欄への記入率は、全ての教科で全国平均を上回っています。

どの教科も、最後まで諦めずに問題に取り組もうとする姿勢が身についている。

【中学校】 解答欄への記入率は、国語は全国平均を上回り、数学、理科は全国平均を下回っています。

生徒一人一人に学習内容の理解や定着が図られていないため、数学・理科に苦手意識が見られる。

☆今後取り組んでいくこと☆

- 少人数授業やチーム・ティーチングを継続し、きめ細かな指導を推進していきます。
- 電子黒板など教材・教具の効果的な活用を図り、どの教科もわかりやすい授業づくりに努めています。
- 活用する能力の向上のため、授業において主体的に考える場面を多く設定していきます。
- 家庭の協力を得ながら、家庭学習や読書活動の充実に努めています。
- 校内研修を充実させるとともに、県や町の指導主事が学校を訪問し、教員の指導力向上のための支援を拡充していきます。